



復幸米を収穫する

熊本支部長 大島健一郎

2020年7月4日、球磨川氾濫による50名の死者。約1020ha、約6100戸の泥の被害がでました。あれから4年半、国は「ダム工事課」を新設して、川辺川ダム工事に着手します（『人吉新聞』2025）

な地を損ない、欲得にまみれた政治家、官僚、財界人の私腹をこやしています。コンクリートや近代的な造成はなにをもたらしたでしょうか。慎ましく簡素な「わび」・「さび」の風情はありません。質素なたたずまいの日本人が古代から継承してきた美意識が全国、津津浦浦から消え去ろうとしています。

第57次球磨川ボランティア

そんな風前の灯のように思えるふる里で、園児たちは自分たちの栽培した復幸米を収穫しました。餅つき大会楽しみました。大きな声で「ぺったんこ」と響き渡ります。つきたての餅を相良の独居の高齢者もいただきます。村がひとつになります。日本の原風景が一瞬、よみがえりました。

が倒進している間に、木町松末、防潮堤によつて、宮城県石巻市牡鹿半島など環境を破壊してしまつた。緑の山々を破壊するダンプカーが土煙をたてています。人為的な土木が風光明媚な自然を奪つてしまつたのです。

日刊人吉新聞  
2024年(令和6年)11月12日



『人吉新聞』  
(2024年11月12日付)

## Ⅳ-5 米作りを通して学びを 「復興米」脱穀体験



なつめ保育園の児童たちが、神戸国際支縁機構（岩村義雄理事長）の指導のもと、復興米の脱穀体験を行いました。

今回で4年目となる取り組みで、復興米の苗を5月に植え、10月に収穫。天日干しを行いました。収穫された復興米の脱穀は、機械ではなく、大正時代の足踏み稻こき機を用いて行われました。

脱穀した復刻米は、なつめ保育園で行われる餅つき大会に使用される予定です。

『広報さがら』(2024年12月号)

『人吉新聞』(2025年1月17日付)

敵味方数千の目前で万一失敗したら死あるのみ、「南無阿彌陀佛」  
八幡大菩薩」と念じつつ馬上にて海中に乗り入れた。宗高  
が一呼吸において目を開くと先ほどとは打って変わり、幾分  
か波は静になっていた。愛用の赤塗りの強弓を満月の下  
とく引き絞つた。的も動く、己も動く、海上より矢  
を放つた。矢は扇のかなめを射抜いて空高く舞い上が  
た。白地に赤の日の丸の扇は夕日に美しく輝いて美しく波  
間に落ちていった。  
それまで声一つ立てず、固唾を飲んで見守っていた敵を  
味方もその瞬間、ワッと歎声挙げてほめたたえた。  
この時平家の小舟の舳先に立つてこの扇を支えていてを  
差し招いたのは玉虫御前であった。平家の軍船では多くの官  
女官女が行動を共にして乗りあわせていた。平家の一軍の谷から屋島  
や壇ノ浦の合戦のたびにこれらの方官女も船と運命を共に  
し、あるいは将兵とともに陸に逃れて四散したのであつ  
た。(余談)一説によれば、壇ノ浦に上陸した多くの官女  
たちは生活に困窮し、自ら春を売り、それが石(下闋)  
女郎衆へと発展したとも伝えられている

時代は過るが、寿永3年（1184）3月20日一の谷の戦いで平家は一門の主だった武将の多くを失った。平家の軍は海上に逃れ、四国讃岐の国屋島で戦陣を立て直した。この情勢を見た源頼朝は弟・範頼に平家討討命じたが、戦果を挙げる事はできなかつた。そこで頼朝はすでに深い満ができつた義経に改めて平家追討を命じた。

義経は悪大儀を利用して攝津より船を出し、追い風に任せて四国阿波勝浦に上陸し、騎馬を使って屋島の背後から奇襲を作戦を行つた。文治元年（1185）2月19日のことであつた。

平家としてはよもや背後から騎馬で攻められようとは思はず、裏の防備をおろそかにしていた。その谷に続き屋島でも背後を突かれて、平家の軍団は我先にと、用意していた軍船に乗り移つた。陸に平家の白旗、海上に平家の赤い旗がひしめき合つてゐた。時は2月20日午後であつた。

平家の陣より一艘の小舟が陸の源氏に向かつて漕ぎ来つた。船の舳先に日の丸の扇が高く立てられ、一人の官女が源氏の陣営に向かつて差し招いた。義経の軍勢は「この扇を射てみよ」ということであつた。すぐに弓の名人を募つた。数人の名前が挙げられたが辞退した後に弓の名手・郡頭与一宗高にこの任務がねだねられた。

今回は五家荘に伝わっている「鬼山御前」の伝説がある。平家物語のハイライドの一つとして、屋島の戦いでも那須与一が平家の軍船に立てた扇の一つとして、屋島の戦いである。この逸話について伝承をもとに五家荘に伝わる話を紹介する。

「与一が扇の的を射抜いた話は、「平家物語」などの二次史料にしか現れない。同時に問題となるのが、与一の実在性である。実は、与一の没年も複数の説があり、定かではないのである。つまり、与一が実在したか疑わしいのだ。

さらに、生きるか死ぬかという合戦の際、「扇の的を射てみよ」という、悠長なことが実行に行われたのか甚だ疑問である。那須与一が扇の的を射抜いたといいう逸話は、「平家物語」の物語性を高めるべく、源平合戦の「コマ」として創作されたものに過ぎないだろう。(渡邊大門) という意見がある。

『真平家物語』鬼山御前(1)  
(第十四回)

鬼山御前

熊本県緒方医院院長

緒方俊一郎

**31年ぶり、  
ゼロから翻訳した新しい聖書  
『聖書 聖書協会共同訳』  
-2018年12月発行-**

全国書店にて  
好評発売中です  
[www.bible.or.jp](http://www.bible.or.jp)  
**日本聖書協会**



人によし、社会によし、未来によし。

 ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1  
<http://www.miyoishi-yushi.co.jp>



実りの秋を迎える。石巻市さくら町の学校法規（後藤園長）の園児44人が15日、波瀬際前の田んぼで「足踏み脱穀」を使つた稲の脱穀を体験した。農業への興味をもたらすと、石巻の農業への大切さを学ぶことを通して、園児たちが「足踏み脱穀」の体験を通じて、米作りの機械を体験する機会を得た。

卷市さくら町の学校法規（後藤園長）の園児44人が15日、波瀬際前の田んぼで「足踏み脱穀」を使つた稲の脱穀を体験した。農業への興味をもたらすと、石巻の農業への大切さを学ぶことを通して、園児たちが「足踏み脱穀」の体験を通じて、米作りの機械を体験する機会を得た。

## 園児が昔ながらの脱穀作業に挑戦

### 長浜幼稚園



『牡鹿新聞』(2024年10月18日付) 13回目の脱穀。

## 昔ながらの道具で脱穀

### 石巻市・長浜幼稚園

日干しした稻からぬを取り外した。一般社団法人神戸田園地主連絡会会員代表より兵庫県神戸市同団が協力し、年見対象は毎年稻作体験をしている今も同市灘波にある4000万石の田んぼでひどいのはねの田植えから稻刈りまでを終え、脱穀作業に入つた。田んぼを訪れた園児たちは、「おもしろい」と喜んでいます。

【経営者】  
「その後、大正時代に使われていた年代物の足踏み式脱穀機を使つて、園児が一人ずつ脱穀作業を楽しんだ。湘南の『モミ』が飛んでいくのが楽しかった。お母さんは『モミはカレーライスで食べたい』と話していた。」



『石巻日日新聞』(2024年10月28日付)。

## クリスマスケーキ

第158次東北ボランティア  
本部長 村上裕隆

宮城県石巻市渡波で、長浜幼稚園の園児たちと13回目の復幸米づくりを楽しみました。無農薬、有機、除草剤なしで「ヒトメボレ」をトロトロ層づくり、田植え、稻刈り、天日干し、脱穀です。自然豊かな地で走り、昆虫に興味を示し、稻が身の回りの生活にとってかけがえのない働きをしていることを体験しました。天日干しは夜間に露がしたたります。昼間には太陽の下で、ミネラルが蓄えられ、おいしいお米になります。大人になって、コンバインなどの機械がなくても、自力でわずかな空き地で米を作る体験をしました。自分たちの食べる量は自分たちでつくれるのです。亀山繁さん、石巻森林組合、地元の農家津田新一さん、保原政美さんが協力してくださいますから感謝です。

石巻祥心会館でクリスマスケーキ 神戸の復興支援団体、今年も

【写真】(2024年10月22日)



『石巻日日新聞』(2024年10月22日付)

日本大震災被災地の復興支援に取り組む社団法人「神戸国際支援機構」(神戸市)は17日、石巻市門脇の社会福祉法人「石巻祥心会」にクリスマスケーキを贈った。

機構の活動に賛同する「玉の肌」(東京)の三木晴信社長の寄付金で70個のケーキを用意。このうち27個を祥心会にプレゼントした。この日は、機構の岩村義雄代表らが、祥心会の障害者支援施設「ひたかみ園」を訪れ、クリスマスより一足早く、利用者らにケーキを手渡した。

真籠(まごめ)秀樹さん(66)は「みんなで食べます」と笑顔で受け取った。

祥心会へのケーキの寄贈は13回目で、宍戸義光理事長は「10年以上たっても、私たちを忘れないでくれてありがとうございます」と喜んだ。

サンタ姿の岩村代表は「ケーキを喜んでくださるのが毎回楽しみ。皆さんと交流できることに感謝している」と話した。

16、17日は機構の職員5人が同市などを訪れ、老人ホーム利用者や一人暮らしの高齢者などにもケーキをプレゼントした。

クリスマスケーキ 『石巻かほく』(2024年12月22日付)。



## 石巻祥心会



『石巻祥心会』(2024年12月25日)。

ご高齢の女性、路上生活者(ホームレス)、ハンディキャップの人たちにクリスマスケーキを今年も届けました。一年に一度、阪神・淡路大震災の時の恩返しで神戸から届けていました。13回目になりました。

70ロールを玉の肌株式会社の三木晴信社長が寛大に提供してくださいました。障がい者施設の「石巻祥心会」(宍戸義光理事長)の各ホームでも喜ばれました。

## 笑顔でメリークリスマス

神戸国際支援機構  
福祉施設にケーキ贈る



『石巻日日新聞』(2024年12月20日付)。



代表取締役 三木 晴信

〒130-0021 東京都墨田区練3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL: www.tamanohada.co.jp

近畿良善パートナーを目指して  
設計 住宅・教会・福祉施設など  
監理 一級建築士 南 俊治

□ 神戸市中央区八幡通4-2-10-201  
□ K: 090-6983-4377  
□ E-mail: CQN05405@nifty.com

南俊治建築研究所  
<https://www.mianai-architect.com>

弁護士法人  
芦屋西宮市民法律事務所

津久井 進  
日弁連災害復興支援委員会委員長  
兵庫県弁護士会前会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区練3丁目8番12号

東北の寒い地。暖かい、明るい、喜びの訪れを、独居のご高齢の女性、路上生活者(ホームレス)、ハンディキャップの人たちにクリスマスケーキを今年も届けました。



## 事務局便り

理事長 本田寿久

スペイン国で欧州最大の水害が2024年10月29日(火)にバレンシアを襲いました。各メディアの災害報道はボランティアの本質を覚醒させたのではないかでしょうか。阪神・淡路大震災からおよそ30年にわたり携わってきた日本のボランティアは日本特有の官僚制・行政主導・管理システムに陥っていること、差異が明らかになりました。去年元日に能登半島を襲った積雪、地震、津波の復興、復旧、再建が遅々として進んでいないと対照的です。

日本のボランティアの在り方はこれまでの「官」主導、あるいは官出身者の上から目線、トップダウンの指導が理想的であるかのように報道してきたこと自体が問題でした。全国的に画一的な制度の反省・総括・方針転換を求めるものです。



『朝日新聞』(2024年12月18日付)

スペイン国パイポルタは最大の被害地点です。約215名の犠牲者のうち、80~90名が亡くなっています。老いも若きもホーキー、バケツ、ちり取りをもってかけつけてきました。

それも、10キロ、20キロを歩いてやってくるのです。岩村義雄会長と、佐々木美和事務局長もかけつけ、現地で涙しているひとたちに寄り添いました。『NHK』は日本からのボランティ



神戸ベトナム人会 2024年 12月 22日



和楽寺 2024年 12月 28日

アとして放映しました(2024年12月12日午後5時9分)。奥能登に向かう神戸国際支縁機構にとり、スペイン、シリア、モロッコ等の民の被災地支縁はたいへん刺激を受けます。

日本人類学会会長のマイケル・シャクルトンさん(神戸国際支縁機構理事)は国際交流を推進する上で有益な働きを提案くださいます。

神戸、阪神間、兵庫県には、バングラデッシュ、ミャンマーからの学生や移住者が増えています。ベトナム人はネパール人と共に生活が定着して、3世の時代になっています。マイケル・シャクルトンさんの最大の関心事のひとつです。12月13日には、愛知県からベトナム語を教える学校設立のため、2017年11月、第3次ベトナム水害ボランティアに同行なさったレ・ティ・トゥ・フォンさんと教師が神戸に相談に来られました。シャクルトンさん5人で会合しました。和楽寺(神戸市長田区)のティック・ドゥック・チ住職(第7次ベトナム)などとも提携して協議しています。忘年会には和楽寺に200人以上が参加されました。

毎年、神戸国際支縁機構は2018年以降、神戸ベトナム人会(ブイ・ティ・オアン会長)が主宰する子どもたちの集いに出席しています。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

・郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には書ける方は『国名』を書き添えてください。

## 救援金、維持会費のご協力を感謝します。(敬称略)

2024年10月20日～2025年1月23日

1,366,910円

佐々木美和、岩村義雄、前川和弥&幸子(4)、さかいようこ、保田薰、千葉幸一(宮城県石巻市)(4)、平澤久紀、玉の肌株式会社、阪上留実子、沖浦宏隆(千葉県布良市)(3)、新地和恵、竹内喜子、東原良学、新免貢、緒方眞喜代(熊本県相良)、ミヨシ共栄株式会社、山本桂、村上章夫、福田雄二(熊本県相良)、白方誠彌(2)、湯川紘未、渡邊徹、大槻良文、神戸ユニオン教会(2)、山本陽子(3)、原浩司(2)、山脇貞司、池田裕子、オリーブの木クリリスト教会、小菅あゆみ、カワグチハコネ、宝塚人権委員会、宝塚九条の会、橋本成年、麻田光広、西上千栄子、宝塚栄光教会、岩間洋&千恵子(4)、神戸新聞文化センター、村上安世、三浦一敏&こう子(宮城県石巻市)、坪川佳史(石川県金沢市)、宍戸義光(宮城県石巻市)、的野慶子、河村ひとみ、からだ会議実行委員会、木村ふみ子(宮城県石巻市)、宮坂信章&和子、松岡齊、河内常男、特定非営利活動法人兵庫共励会、弓矢健児、西堀元、村田優美子、藤玄洋(朝倉市西宗寺住職)、春名純人、袴田康裕、大島健二郎(2)、祐照寺(古川真照住職)、熊野以素、佐竹直美、中山圭子、保田茂(2)、加藤賢宗(石巻市淨音寺住職)、尾上健一、尾閑マユミ、永野由美子、兵庫県立いえしま自然体験センター、萩本義郎、中村清雅、北村恭男、Moses Paul & 早瀬裕子、石井久雄、岡本毅一、林かれん、沖菜穂子、嶋田礼子(千葉県布良市)、八尾和樹、宮氏道夫、石井泰代、野田健二、金光教多良木教会、芦名定道、坂井純人、民部綾子、中條和子、KISO牧場、中山喜世子、豊島睦子、糸井佳子、阿部艶子、山田通裕、金貴順、朝日泰治&華子、相浦恵子、土手ゆき子、土手朋、大西孝、朴淳用、佐野二三雄、佐々木貴子、有田貞一&美榮子(2)、金恒勝、(株)ハミングジョー(2)、能城一郎、藤野知香、浜崎照夫、出村正廣(石川県珠洲市)、大谷洋子、瀬口昌久、佐々木駿介、阪上順子砂丘の会代表、梶山洋枝、岡部和香、櫻井由里子、大嶋善直、訓路キリスト福音館(2)、ホームチャペルキリストの花嫁、森祐理、庄司慈明(宮城県石巻市)、岩本久吉&眞子(福岡県松木)(3)、主イエス恵愛教会、高橋務、日本キリスト教団芦屋三条教会、明石バプテストキリスト教会、日本キリスト教団久宝教会、糸島聖書集会、木村公一、吉持志保、佐々木基文(西光院住職)、在日大韓基督教会、神戸教会、阿部和夫&斎子(宮城県石巻市)。

支縁物資感謝申し上げます。

フードバンク関西、深江のみなさんから茶菓、神戸ユニオン・チャーチから菓子、平澤久紀澤から衣類、壱口喜寿江(福岡県松木)から食材、中村優子(佐賀県武雄市)からコーヒー、梶原ミドリ(福岡県朝倉市松木)からコーヒー(2)、徳留由美から支縁物資など、鳥越肖男から入浴券、なつめ保育園(緒方眞喜代園長)からミカン、Mohamed Waqas Ashmed 夫妻から食事、ドーラ・オルティーシーからナツツ、アンナ・カマチョからコーヒーなど、前川幸子からおにぎり、山崎留実子から絵はがきなど、川崎栄子からカレンダー、ウリハッキヨから飲食券、前川和弥から食、津野さおりから暖房具、阿部和夫(宮城県石巻市)からみかんなど、木村勝&木村ふみ子(宮城県石巻市)から手芸品など、丹野恵子(宮城県石巻市)から海苔、佐藤金一郎&晴美(宮城県渡波)からコメなど、亀山紘(宮城県石巻市元市長)&紀子から菓子、齋藤正美(宮城県石巻市市長)からカマボコ詰め合わせ、本田敏子(宮城県石巻市)から海苔、菊地敬子(宮城県渡波)から手製小物、玉の肌株式会社からクリスマスケーキ、宍戸義光(宮城県石巻市)から焼酎、横山恵子からカレンダー、東垂水ルーテル教会から消毒剤、ベトナム・クリスマス会から菓子、村上安世から靴下など、前川和弥&幸子から高麗人参など、中永公子からご著書、藤野知香からカイロなど、馬部省一さんから魚、ティック・ドゥック・チ(和楽寺住職)から菓子など、Nell Ly からザータなど、Addai Hamer & Lilian から菓子、Nadja George から cross、本田寿久から献金箱など

## 編集後記

私は翁明次と申します。62歳です。ベトナム・ポートビープルとして、日本にきました。1973年4月30日に母国は南北統一されました。アメリカ軍はベトコンに敗れました。私の家族は、ベイジエンから1980年12月1日、ノルウェーの貨物船に乗船して、日本を目指しました。ベトナムからの165人は持ち物をゴルドに換えてから運賃として乗船しました。私は13歳でした。日本に命からがら逃げてきたのです。横浜港から陸路で神戸にやって来ました。日本語もできませんでしたが、生きていくために何でもしました。ケミカルシューズの営業をしながら、結婚をし、子育てに励み、帰化し、今日にいたります。孫がいる1世のベトナム人の多くはまだ日本語が不自由です。一方、孫たちは日本語しか話せません。世代間のギャップがあり、コミュニケーションができない問題をどうするか、やはり日本にベトナム人のために母語であるベトナム語を教える学校が必要と痛感します。そのために神戸国際支縁機構などに相談しています。よろしくお願いします。翁明次



右 翁明次 手前左 岩村義雄  
2024年12月28日